

みんなでつくる 「歩いて楽しい東大路」お便り（案）

創刊号

～「歩いて楽しい東大路」ニュースレター～

「歩いて楽しい東大路通をつくる会」事務局

平成23年2月

＝東大路通ニュースレター発行の趣旨＝

東大路通は、京都市の南北の交通を支える主要な幹線道路です。沿線には、名所や旧跡、文化施設などが豊富で、多くの観光客の方々にぎわっています。また、東山区民の皆様にとっても身近に京都の情緒を親しめる空間となっています。

その一方で、多くの人々が利用するにも関わらず歩道が狭いことや、バス停留所にバス待ちの人々があふれるなど、区民の皆様や観光客の方々が安心、快適に歩けない状況にあります。

区民の皆様からは、「安心・安全で快適な歩行空間の整備」について強く求められており、東大路通を歩いて楽しい道路とするためには、これらの課題を解消していくことが必要です。

このためには、区民の皆様や各事業者の方々、行政が共に考え、意見を出し合い、「歩いて楽しい東大路」の整備に向けて協力し合うことが重要になります。

このニュースレターは、「歩いて楽しい東大路」の整備に向けての課題や基本方針について、区民の皆様にお知らせするとともに、「歩いて楽しい東大路」の実現に向けてのご理解とご協力をいただくために発行するものです。

「歩いて楽しい東大路をつくる会」を開催しました

昨年7月、東山区各学区の自治連合会、市政協力委員連絡協議会や東山区交通安全対策協議会の会長、学識経験者、地元関係機関で構成する「歩いて楽しい東大路をつくる会」が発足しました。

第1回は、昨年7月2日に開催され、東大路通の現状や課題、現在の道路幅員のままで「歩いて楽しい東大路」を整備するための前提条件を認識し、それぞれの立場からご意見をいただきました。具体的には、「高齢者にとって歩道が狭く危険である」、「歩道も車道も自転車で通行するときに危険である」など、特に歩道のあり方について多くの意見をいただきました。

第2回は、1月27日に開催され、各学区自治連役員会でいただいた地元要望の整理や歩行空間の整備に向けた基本方針などについて検討しました。

引き続き、「歩いて楽しい東大路」の整備に向けての協議を行います。

第1回「歩いて楽しい東大路をつくる会」で出された主な意見

- ・歩道を歩きたいと思っているが、狭いために歩きづらい。
- ・安心して歩けるように歩道を広げてほしい。
- ・東山区の長年の要望であり、歩道を拡幅するためには様々な課題があるが、今後も継続的に協議、検討を行い、歩きやすい東大路通をつくっていききたい。

～「歩いて楽しい東大路をつくる会」の目的～

「歩いて楽しい東大路をつくる会」では、区民の皆様と東大路通の現状を認識し、課題の解決策などについて意見交換を行い、「歩いて楽しい東大路」の実現に向けた協議・検討を行います。

＜会議の様子＞



＜学識経験者の方々＞



左: 宗田准教授 (京都府立大学)
中: 岡田教授 (京都大学)
右: 若林教授 (名城大学)

東大路通における課題

歩道の幅員・段差などのバリア（障害）が存在しています（東山三条～東福寺）

歩道と車道との段差が大きい箇所や、横断勾配の急な箇所があります。

また、東山三条～東山七条は、歩道幅員も狭く、高齢者や身体に障害のある方などが安心、安全に通行することが難しい環境になっています。

＜馬町交差点付近の歩道＞



歩行者、自転車、自動車の安全な通行環境が整っていません（東山三条～東山七条）

車道、歩道の幅員が狭く、歩行者にとって、安全で快適な通行環境が整っていません。また、自転車についても、原則として車道を走行する必要がありますが、車道が狭く、歩道を通行することもあり、自転車の安全な通行環境も整っていません。

＜東大路通の交通状況＞



都心部の幹線道路で交通量が多くなっています。（東山三条～東福寺）

沿道に官公庁や病院など生活に密着した施設や、名所、旧跡、文化施設などの観光施設が多数所在することから、自動車や歩行者などの通行が多くなっています。さらに、平成23年4月には、小中一貫校（開晴館）が開校し、多くの児童や生徒が東大路通を通学路として利用することとなります。

＜東山五条の混雑状況＞



主要な公共交通は路線バスですが、良好なバス待ち環境が整っていません（東山三条～東山七条）

沿道での公共交通による主要な移動手段である路線バスは、運行本数が多く便利な一方、バス停にバスが集中することがあります。また、バス乗降客が狭い歩道にあふれ、歩行者の通行に支障を及ぼしています。

＜バス待ち状況＞



歩道上へのはみ出し陳列により、歩行空間の通行環境が低下しています（東山七条～東福寺）

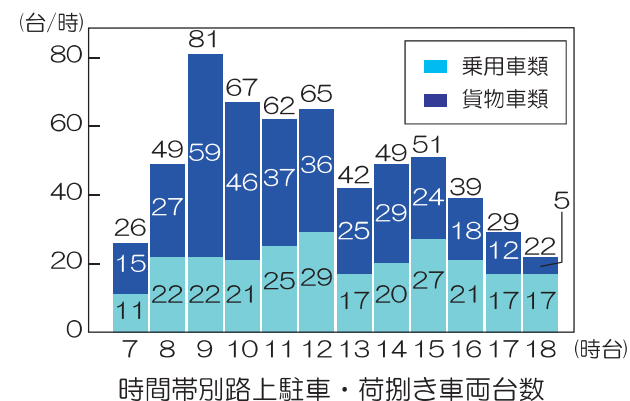
歩道幅員が十分に確保されているにも関わらず、歩道上への商品のはみ出し陳列や、車道部への自転車の駐輪などにより、安全、快適な通行に影響を与えています。

＜車道への駐輪状況＞



路上駐車・荷捌き車両が円滑な交通に支障を及ぼしています（東山三条～東山七条）

路上駐車や荷捌き車両により、直進車両の通行を阻害し、交通渋滞の要因になっています。



東大路通の区間別断面構成と交通量

東大路通は、以下のような道路幅員、交通量であり、十分な車線、歩道幅員が確保されていません。

	東山三条～東山五条	東山五条～東山七条	東山七条～東福寺
道路幅員	16.50m	14.00m	22.00m
車線	2.75m	2.54m	3.25m
歩道	2.25m	1.25m, 1.60m	3.10m, 3.20m
路肩	0.50m	0.50m	1.00m
交通量			
自動車	27,675台/24時間	25,993台/24時間	29,350台/24時間
自転車	1,061台/12時間	709台/12時間	699台/12時間
歩行者	2,738人/12時間	1,334人/12時間	1,050人/12時間

「歩いて楽しい東大路」整備に向けた基本方針

東大路通の目指す姿

現在の道路幅員の中で、歩行者が安心・安全、そして快適に通行できる歩行空間を確保するとともに、「環境」、「景観」、「地域コミュニティ」、「観光振興」等の視点からも「歩いて楽しい東大路」を目指します。

ハード整備

- 歩行者が安全で快適に通行できる道路とするため、歩行空間の拡大と交通安全性の向上及び自動車交通の抑制を目指します。
- 歩行者の安全に配慮した歩行空間の確保を目指します。
- 公共交通の円滑な運行を目指します。

ソフト対策

- 区民自らが、クルマ依存型の生活を見直し、自然と調和したゆったりした暮らしを来訪者にも提唱し、ゆっくりと歩いて「五感で楽しむまち」を目指します。
- 歩行者も自転車も自動車も交通ルールとマナーを守り、交通安全を実践します。
- 車道や歩行空間において、路側への自転車駐輪や歩道上への商品陳列等の通路の不適切な利用を改めます。

「歩いて楽しい東大路」の整備のための前提条件

「歩いて楽しい東大路」を整備するためには、多くの課題があります。これらを克服するためには、東山区民の理解と協力の下、クルマを重視したまちと暮らしから「歩く」ことを中心としたまちと暮らしに大きく転換することが必要です。

「歩いて楽しい東大路」整備のための施策案	左記施策の実施にかかる課題	課題解決に伴う前提条件
歩行空間の拡大	放置自転車やはみ出し陳列、看板等の増加	地域ぐるみの道路の適切な利用の検討、推進
	電線類地中化に伴う地上機器設置箇所の確保	地中化にかかる沿道住民の理解と協力
車道幅員の減少	自動車交通容量低下による東大路通及び周辺道路での交通混雑の発生	周辺道路への適切な分散適度にクルマに頼らないライフスタイルへの転換
	荷捌き、路上駐車による自動車交通の走行性の低下	地域に応じた荷捌きルールの検討路上駐車対策の検討
	路線バス運行にかかる自動車交通の走行性の低下	路線バスの効率的で円滑な運行の検討